

総合看護学実習におけるポートフォリオ導入プロセス

Portfolio induction process in Clinical Practice of Integrative Nursing

藤澤 盛樹¹, 近藤 純子², 藤原 尚子³, 河野 益美⁴

要旨

本学の総合看護学実習では、学生が自律・自立した看護実践を意識できるように運営してきたが、学生の受け身的な姿勢は課題となっていた。ポートフォリオを活用した教育実践には、ポートフォリオの活用により学生が主体的で能動的な学習ができる(坂田,佐藤, 石塚, 2013; 杉浦, 2012)と報告されている。本研究では、ポートフォリオを活用した総合看護学実習の導入プロセスを明らかにすることを目的に、1. 文献検討 2. 実習内容の検討・実習記録フォーマット改訂 3. 教員研修の開催を行った。その結果、ポートフォリオの活用が学生の主体性を促し能動的な学習につながる事が分かり、「看護に対する自己の課題を明確にし、自己課題の達成を目指して主体的に取り組むことができる」という新たな実習目標を立て、本学の総合看護学実習のツールとして導入できた。臨地実習指導者とポートフォリオの教育手法を共有したことにより、ポートフォリオのメリットを活かしながら協働して実習指導にあたる事が期待できる。さらに今後の運用を評価し、具体的な指導指針の作成を目指し総合看護学実習の運用方法の構築に活かしたい。

キーワード：ポートフォリオ, 総合看護学実習, 実習記録, 導入プロセス, 主体的な学び
Portfolio, Clinical Practice of Integrative Nursing, Practice record,
Induction process, Active Learning

I. はじめに

本学看護学部は総合看護学実習は、複数の患者を受け持ち、一勤務帯を通し、臨床実践の中で必要な基礎的知識と技術を統合的に体験(厚生省, 2007)することが可能なシラバスを開学当初から組み立て実施してきた。それは、文部科学省・厚生労働省の平成20年保健師助産師看護師養成所指定規則第4次改正(日本看護協会, 2009)に準じ、「看護の統合と実践」の中で4年次後期に配当され、本学部教育における臨地実習の最後に履修するように位置付けられている。本学では看護基礎教育における集大成として、全教員で総合看護学実習の指導に関わるようになっており、看護学部の実習委員会総合看護学実習ワーキンググループが中心となり、運営を担ってきた。複数患者への看護実践を体験的に学習するための看護師のシャドウイ

ングや、組織の一員としてのリーダーシップ・メンバーシップを意識づけるための病棟管理者のシャドウイングを組み込み運営してきた。しかし2015年度の授業評価では、学生がチームの一員としての実践的な能力を養うという目標達成に向け、自律して実践的な実習を行うというよりは、受け身的な姿勢が目立つ結果となっていた。

看護基礎教育分野での学生の能動的な学習手法として、ポートフォリオに関する研究が2000年に始まり、2005年から増加していると報告されていることから(小島, 2012)、看護基礎教育におけるポートフォリオの活用が注目されている。実際にポートフォリオの活用により学生が主体的で能動的な学習ができること(坂田,佐藤, 石塚, 2013; 杉浦, 2012)や課題発見力、観察力、根拠を大切に力、相手の立場に立つ力、プレゼンテーション力、計画立案・遂行力を獲得できた(水方, 2015)といっ

- | | | | |
|---|----------------|--------|------|
| 1 | Seiki FUJISAWA | 千里金蘭大学 | 看護学部 |
| 2 | Junko KONDO | 千里金蘭大学 | 看護学部 |
| 3 | Naoko FUJIWARA | 千里金蘭大学 | 看護学部 |
| 4 | Masumi KONO | 千里金蘭大学 | 看護学部 |

受理日：2016年9月10日
査読付

た報告がなされている。

そこで今年度からポートフォリオの効果を活かした総合看護学実習を運営することとなった。本研究では、ポートフォリオを活用した総合看護学実習の導入プロセスを明らかにすることを目的とし、今後の総合看護学実習の改善と運用方法構築への資料とし、本学の実習指導の質向上を目指すこととする。

Ⅱ. 方法

1. 本学の総合看護学実習にポートフォリオを導入することに意義があるのかを検証するため、先行研究におけるポートフォリオを活用した教育実践が示された文献の検討を行った。
2. 昨年度の本学看護学部で総合看護学実習の成績および授業アンケートの分析と文献検討から、総合看護学実習の内容検討と実習記録のフォーマットを改訂した。
3. 教員・臨地実習指導者への周知とポートフォリオの研修を開催した。

これら 1. 文献検討 2. 実習内容の検討・実習記録のフォーマット改訂 3. 教員研修の開催についてまとめ、考察することにより総合看護学実習へのポートフォリオ導入プロセスを振り返る。

Ⅲ. 結果

1. 文献検討

1) 分析の視点

ポートフォリオを活用した看護基礎教育での講義・演習での教育実践、実習での教育実践、看護学以外の分野での教育実践が言及されたものを中心に文献を検討することとした。

2) 文献検索の手順

医中誌Web版 (Ver.5) からポートフォリオ・導入、ポートフォリオ・実習記録、ポートフォリオ・導入・実習記録をkey wordに原著論文と看護文献で検索し26件の該当文献から重複しているものを除いた24件を対象とした。また看護学分野以外のポートフォリオを活用した医療職養成の教育に関する文献を検討するため、ポートフォリオ・導入をkeywordに29件から看護学分野を除く16件の該当文献を対象に検討した。

3) 文献検討の結果

ポートフォリオに関する看護学分野の文献では、ポートフォリオの効果検証に関連するものが16件と最多であった。また、ポートフォリオの効果検証としていなくても渥美 (2012) では、授業評価をポートフォリオの記録で分析した研究がみられた。

看護現任教育では、認定看護師教育課程での教育 (筑後, 松村, 星野, 2010) や、看護師のキャリア開発、目標管理にポートフォリオが活用されていた (三浦, 阿久津, 是木, 他 2012)。ポートフォリオの記録には、鈴木 (2015) のゴールシートを参考としているものが多かった。ポートフォリオを活用した以下の分析の視点について結果を示す。

(1) ポートフォリオを活用した講義・演習での教育実践 (表1)

看護基礎教育においては、実習に限らず、講義や演習でポートフォリオが活用されており、山本, 岩脇, 滝下, 他 (2012) では、感染予防行動の教育にポートフォリオを活用し、9割以上の学生が、ポートフォリオが将来役立つ、感染予防行動の習得に有効であったと回答し、自由記述の分析には可視化することで成長過程を実感できると報告されていた。坂田, 佐藤, 石塚 (2013) では、基礎看護学の科目でポートフォリオを活用し、学生が自己の目標に向かって主体的な学習活動を起こすきっかけになっていることや職業志向を高めると述べていた。在宅看護論ではポートフォリオによって自己教育力低得点群の学生の授業前後で学習方法・学習内容の理解が進み自己教育力尺度の「学習の技能と基盤」領域の得点が有意に上昇した (横山, 藪田, 2005) と報告がなされていた。

(2) ポートフォリオを活用した実習での教育実践 (表2)

基礎看護学実習において質問紙調査で臨地実習指導者の7割近くが学生の実習方法に肯定的な評価を回答し、実習記録・評価表の変更が学習意欲の向上につながったと述べていた (藤村, 大谷 高口, 他 2015)。他に、ポートフォリオを活用した看護学実習に関し、箕口, 柴田 (2015) は基礎看護学実習における自己教育力育成への影響を検証していた。宮城, 原, 長守, 他 (2013) は成人看護学実習においてポートフォリオの活用が学生の実習期間における成長過程の変化と自己成長の促進をもたらした。

表1 講義・演習におけるポートフォリオの活用を示した文献一覧

タイトル	発行年	掲載誌	著者名	内容
看護基礎教育の感染予防教育にポートフォリオを活用することの効果	2012	京都府立医科大学看護学科紀要	山本 容子, 岩脇 陽子, 滝下 幸栄, 室田 昌子, 西内 由香里	看護大学2年生の看護技術関連科目の中の感染予防教育においてポートフォリオ活用し、授業前後の感染予防行動のアンケート調査からポートフォリオの効果を検証している。
看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践	2013	聖隷クリストファー大学看護学部紀要	坂田 五月, 佐藤 道子, 石塚 淳子	看護大学2年生の基礎看護学の科目でポートフォリオを作成し、履修した2年生に当該科目の学習活動についてフォーカスグループインタビューを行い、その内容分析からポートフォリオの効果を検証している。
授業におけるポートフォリオの導入 学生の自己教育力の変化と感想からみた学習意欲の変化	2005	中国四国地区国立病院附属看護学校紀要	横山 弘, 薮田 素子	看護専門学校2年生を対象に、在宅看護論で授業前後の自己教育尺度の分析と授業後の感想の自由記述の分析からポートフォリオの効果を検証している。

ていたとし、日下、曾谷（2012）は精神看護学実習にてポートフォリオ導入の試みとして実習ふりかえりシートの枠組みを導入し、臨床における学生の学びや成長を明示化することで、実習における患者との援助的関係の展開の仕方をまとめていた。ポートフォリオを実習に活用することでの効果について、それぞれ報告がなされていた。

(3) ポートフォリオを活用した看護学以外の分野での教育実践（表3）

ポートフォリオは臨地実習を中心に、医師、薬剤師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師養成の教育で活用されていた。

安原、平田、谷口（2015）は、薬学実習においてポ-

ートフォリオ導入前後で自己評価の高評価割合の増加を示していた。診療放射線技師の実習においても、ポートフォリオ導入前後で、国家試験に準ずる多肢選択試験の成績および到達目標達成度の自己評価が有意に高かったことを報告していた（西澤、建部、檀原、2012）。

以上のことから、学生が主体的に実習に臨むためには、学生自ら自己課題の達成を目指していくことができるポートフォリオの活用が看護学教育には有効であり、本学の実習での活用は十分可能であると考えられた。一方で、総合看護学実習や統合看護学実習でのポートフォリオの活用を示唆した研究は見当たらず、教員自身の指導方法や指導体制に着目したものも見当たらなかった。

表2 実習におけるポートフォリオの活用を示した文献一覧

タイトル	発行年	掲載誌	著者名	内容
基礎看護学実習第三段階にプロジェクト学習を取り入れた効果について	2015	愛知県立総合看護専門学校紀要	藤村 礼美, 大谷 美香, 高口 みさき, 都築 三幸, 出石 敬子, 村瀬 裕子	ポートフォリオを活用した基礎看護学実習の2つの臨地実習施設の実習指導者にアンケート調査を行い、基礎看護学実習の効果を検証している。
ポートフォリオとルーブリック・リフレクションを用いた実習の自己教育力育成への影響 基礎看護学実習後の学生の自己評価と自己教育力測定尺度から	2015	日本看護学会論文集: 看護教育	箕口 ゆう子, 柴田 美恵子	ポートフォリオとルーブリック・リフレクションを用いた基礎看護学実習を履修した看護専門学校2年生を対象に、自己教育力測定尺度と自己評価アンケートから基礎看護学実習の効果を検証している。
成人看護学実習前後での看護学生の自己成長過程における変化 ポートフォリオを活用した学び	2013	共創福祉	宮城 和美, 原 元子, 長守 加代子, 河相 てる美	ポートフォリオを活用した成人看護学実習において、履修した看護短期大学2年生を対象に、学生のポートフォリオの記述内容から、自己目標と自己成長との関連性で成人看護学実習の効果を検証している。
精神看護学実習におけるポートフォリオ導入の試み実習振り返りシートの枠組み作成による援助関係を展開する能力の特徴	2012	川崎医療短期大学紀要	日下 知子, 曾谷 貴子	看護短期大学の精神看護学実習を履修した学生の実習振り返りシートの記述からポートフォリオ導入における精神看護学実習の効果を検証している。

表3 看護学分野以外のポートフォリオの活用を示した文献一覧

タイトル	発行年	掲載誌	著者名	内容
長期実務実習におけるポートフォリオとルーブリックを用いた形成的評価の実施と到達目標に対する到達状況の調査	2015	日本病院薬剤師会雑誌	安原 昌宏, 平田 景子, 谷口 晶子, 西原 昌幸	6年生薬学部薬学実習を履修した学生を対象に、介入群（ポートフォリオ活用後の履修学生）と非介入群（ポートフォリオ活用前の履修学生）で、自己評価からポートフォリオの効果を検証している。
ポートフォリオ評価が診療放射線技師養成所の学生の臨床実習に及ぼす影響	2012	順天堂医学	西澤 徹, 建部 一夫, 檀原 高	診療放射線技師教育課程の専門学校2年生を対象に、介入群（ポートフォリオ評価を経験した履修学生）と非介入群（ポートフォリオ評価の未経験の履修学生）で臨地実習における自己評価と臨地実習後の知識試験の結果からポートフォリオの効果を検証している。

実習記録は、自己課題へのとりくみを可視化するため、先行文献で多用されていた鈴木（2015）のゴールシートを参考にすることにした。またこの自己課題へのとりくみを総合看護学実習に組み込む方法などを検討していくこととした。

2. 実習内容の検討・実習記録フォーマットの改訂

1) 実習目標の設定

これまでの総合看護学実習を分析するために、2015年度の総合看護学実習の評価、授業アンケートの結果を分析した。2015年度の総合看護学実習履修学生の評価平均点は100点満点中82.7点であっ

た。総合看護学実習後に実施した履修学生への授業アンケート20問では、5件法（1～5点）で平均4.25であった（表4）。これらの結果から総合看護学実習に対する実習目標の達成度、学生の満足度とも概ね良好であると捉えることができた。しかし、授業アンケートの自由記述の中には、「担当教員の方が2病棟担当していたために、何か聞きたいことがあったとき、聞くことができなかった」や「できれば、1病棟に1人の教員配置がいいと思う」といった回答から、実習中に教員の介入を望んでいる様子が伺えた。学生自身の総合看護学実習に取り組む姿勢は、主体的に能動的に取り組むこと

表4 2015年度 総合看護学実習 授業評価
授業評価


	平均	SD	度数	最小値	最大値
q1 オリエンテーションの内容は役立った	4.12	.71	68	2	5
q2 実習要項は理解しやすかった	3.94	.81	68	1	5
q3 この実習において積極的に参加できた	4.34	.51	68	3	5
q4 この実習の到達目標を達成できた	4.12	.51	68	3	5
q5 今までの学習内容を活用しながら実習を展開できた	4.07	.56	68	3	5
q6 日々の学びを活かして実習を展開できた	4.20	.53	67	3	5
q7 カンファレンスは学習を深めることに役だった	3.91	.71	68	2	5
q8 教員から必要時に適切な指導や助言が得られた	4.06	.94	68	2	5
q9 教員は学生が質問や意見を述べる機会を配慮していた	4.21	.77	68	2	5
q10 教員は熱意をもって関わっていた	4.22	.83	68	2	5
q11 実習指導者から必要時に適切な指導や助言が得られた	4.39	.74	68	2	5
q12 実習指導者は学生が質問や意見を述べる機会を配慮していた	4.37	.71	68	2	5
q13 実習指導者は熱意をもって関わっていた	4.43	.66	68	3	5
q14 教員と実習指導者の連携がとれていた	3.94	1.06	68	1	5
q15 スタッフの対象者に対する態度から学ぶ機会の多い実習であった	4.42	.70	68	2	5
q16 実習では、他の医療従事者の協力を得られた	4.12	.75	68	2	5
q17 学生同士が協力し合うことができた	4.51	.68	68	2	5
q18 実習施設はこの実習に適していた	4.54	.61	68	2	5
q19 この実習は自分の成長に役立った	4.58	.50	68	4	5
q20 この実習に満足した	4.46	.53	68	3	5

2015 年度 看護学部実習委員会 総合看護学実習WG 作成

総合看護学実習におけるポートフォリオ導入プロセス

行動計画実施記録_1 学籍番号 () 氏名 ()

月 日 ()

実 習 目 標			自己課題に対する目標			実習目標に対する振り返り	
	時間	計画	計画の根拠	時間	実施記録	この日の計画や看護に対する評価	
			 <div data-bbox="494 488 904 548" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ※ 自己課題の目標を日々記述する欄 </div>				

行動計画実施記録_2 学籍番号 () 氏名 ()

月 日 ()


時間	計画	計画の根拠	時間	実施記録	この日の計画や看護に対する評価
				<div data-bbox="821 1601 1311 1664" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ※ 自己課題に対する評価を日々記述する欄 </div> 	
指導いただいたことからの学び			自己課題の目標に対する評価		

図1 実習記録

総合看護学実習 自己課題

学籍番号：

名前：

自己課題シート

作成日 年 月 日 ()

ビジョン (願い)

➔

ゴール (目標)

理由

<自分の目標をどんな書き出しましょう！>

自己課題に対する評価レポート

あなたの成長

①達成できた目標

②改善すること

③今の気持ち

④今後の課題

図2 自己課題シート・自己課題に対する評価レポート

ができているとは言えない現状が示された。そこで、学生が主体的に実習に取り組んでいける実習内容を検討することにした。その結果、実習目標に学生が自分自身の課題を抽出し、それを実習中に解決・克服するための計画をたて、実践することを組み込み、学生が達成感を感じながら実習に主体的に取り組めるように「看護に対する自己の課題を明確にし、自己課題の達成を目指して主体的に取り組むことができる」という目標を設定した。この目標に連係して学生の主体的な学びを引き出すツールがポートフォリオであると考えられるため、実習記録の中に、この目標に対する学生のとりくみがポートフォリオを通して可視化できるように改訂することとした。

2) 実習記録フォーマットの改訂

総合看護学実習の内容から、複数患者を受け持つことと、看護管理者のシャドウイングに必要な実習記録に関して、これらの看護の思考過程を示す実習記録 (図1) は、これまでの総合看護学実習記録と同様のフォーマットを活用することとした。

さらに、「看護に対する自己の課題を明確に

し、自己課題の達成を目指して主体的に取り組むことができる」という新たな実習目標と連係させるため、ポートフォリオを活用した学生の自己課題解決・克服の成果を可視化する記録として、鈴木 (2015) のゴールシートを参考に自己課題シート・自己課題に対する評価レポート (図2) を作成した。これは対象者主体の看護過程を示すものではなく、学生自ら自分自身の課題とその課題解決に向けた具体策を実習開始時に記述し、実習終了時には、その自己課題へのとりくみと評価を記述する様式とした。また実習中に自己課題を意識して取り組めるように、実習記録の様式の中にも自己課題に関する目標と評価を毎日記述できるように改善した。

3) 自己課題へのとりくみ

(1) 学生

学生は、実習の初日・最終日に自己課題シートを用いて担当教員による個別面談を受ける。2日目以降の臨地での実習中は、日々の実習記録に自己課題の目標と評価を明記して、常に自己課題を意識し、振り返りながら実習に臨めるようにした。

(2) 教員

教員は、実習初日に学生の自己課題の抽出と自己課題解決に向けた実習中の具体策立案のとりくみを支援する。最終日には自己課題に対する評価レポートを用いて、自己課題の解決・克服の評価を面談で振り返るよう教員が支援する。そのため、実習初日と最終日に個別面談を行う体制を必須の実習スケジュールとして敷くことにした。本実習では、学生の自立・自律した実習態度を養うことを意識し、与える教育ではない指導体制を考慮しつつ、自己課題の解決・克服のための支援ができるように、学生4～6名に対し、教員1名程度とし、実習期間中に個別支援ができる教員数を各実習施設に配置した。

以上のことから、自己課題の達成に向けて指導を受けやすいような学生自身の学習環境と教員が学生の自己課題へのとりくみを把握しやすい指導環境に整えた。そして、この自己課題へのとりくみにより、学生が達成感を得ながら実習を展開できるように考慮した。

3. 教員研修の開催

本学部でのポートフォリオを活用した実習指導は初めての試みであるため、実習指導に関わる教員への周知・共有が不可欠となった。教員へ周知する前に、本学部の実習委員会の総合看護学実習ワーキンググループのメンバーで他校のポートフォリオ研修に参加した。講師の鈴木敏江氏は、プロジェクト学習とポートフォリオのパイオニアとして著名で、看護基礎教育や看護現任教育にポートフォリオを導入した実績のある講師である。午前の部は、他校の学生とともにポートフォリオの解説を講義形式で受けた。授業の準備は学生が全て行ったとのことで、授業内に留まらず、学生の主体性を育てている環境に研修参加した総合看護学実習ワーキングメンバーは驚いた。講師は「自分で自分を成長させる人になる」ためにポートフォリオの手法が役立つことについて、今までの教育との比較や具体例を用いて解説していた。集中して講義を受けている学生の姿が印象的であった。午後の部では、学生が演習を行う様子を見学した。講師以外の学内教員は、学生の様子を見守っていた。ここで積極的な介入を避けた見守りには学生の主体性を引き出すために意味があるということを知った。この研修では、ポートフォリオ手法の重要性について、理論と実践の両面から知る

ことができた。また実際に他校のポートフォリオを活用した演習を見学し、他校の学生が生き生きと主体的に学習に取り組む様子を目の当たりにできた。このことから総合看護学実習ワーキングとしてプロジェクト学習、ポートフォリオについて見識を深めることができた。

従来の総合看護学実習とは異なるため、指導する教員全員がポートフォリオを導入する総合看護学実習に対する目的・目標・方法を共通認識した上で実習を運営する必要があると考えた。また7箇所の実習施設で運営するため、各施設の臨地実習指導者および管理者も、同様に本実習の目的・目標・方法を共通認識しておくことが必要であると考えた。そこで教員間の共通認識を図るために、教員会議の中で全体的な総合看護学実習の運営方法とポートフォリオを導入することによる従来の総合看護学実習との変更点について周知を図った。そして各施設での打ち合わせでは、教員会議での周知に基づき丁寧な説明をするように各施設担当教員に協力を求めた。さらに、ポートフォリオの意味や基本的な事項、指導方法については、指導に活かすことができるように教員・臨地実習指導者対象に研修を行うことにした。この研修は、前述した他校研修の講師であったシンクタンク未来ビジョン代表の鈴木敏恵氏を講師に招いた。「アクティブラーニングをこえた新しい看護教育を実現する！与えられた学びから意志ある学びへ」をテーマに、本学のFD（Faculty Development）研修として、FD委員会と共同で企画し開催した。この研修は4時間で、プロジェクト学習の基本とポートフォリオの活用方法に関する内容で構成され、講師の著書「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する」（鈴木、2016）を基に解説された。また今回改訂した総合看護学実習の実習要項と実習記録についての助言を受けた。総合看護学実習で採用した自己課題シート（図2）に関連する内容としては、ビジョン（目的）からゴール（具体的な目標）に向かう過程が意思であり、成長であり、思考プロセスであると説明がなされ、その過程を8つのフェーズに分け、各フェーズで身につく力と、フェーズごとの教員の関わり（コーチング例）について説明がなされた。評価についても、この過程（思考プロセス）を評価することを強調され、加えて、評価とは価値を見いだすことであると述べられ、価値を見いだすのは臨地実習指導者や教員の力が大きく、指導する教員も真剣に取り組む、

学生の声をよく聞かないと見いだせないと強調されていた。

そしてこの研修には臨地実習施設から5名の臨地実習指導者が参加され、今年度の総合看護学実習における指導への準備とした。

IV. 考察

1. 文献検討

文献検討から、看護基礎教育では講義、演習、実習と様々な授業形態において、ポートフォリオの活用が学生の主体性を促し、能動的な学習につながる事が明らかになっている。履修する学生自身の達成感も大きく、自己成長への相乗効果となっていることが分かる。看護学分野以外の医療専門職の養成課程の教育においても実習を中心にポートフォリオ活用の実績が複数報告されており、本学の総合看護学実習においてポートフォリオを導入したことはメリットが大きいと考えられる。しかし、総合看護学実習でのポートフォリオの活用や教員自身の指導方法に関する先行調査が見当たらないため、この実習への導入を評価し、教員自身の指導方法や指導体制について研究を重ねていく必要がある。

2. 実習内容の検討・実習記録フォーマットの改訂

文献検討の結果、ポートフォリオの活用は、学生が達成感を感じながら実習に主体的に取り組める教育手法であると考えられたため、ポートフォリオのメリットを活かすことができる新たな実習目標を設定し、実習記録のフォーマットを改訂した。実習目標の設定と実習記録の改訂により、ポートフォリオを一貫した形式で総合看護学実習の内容の中に組み込むことができたと考えられる。また、改訂した実習記録を用い担当教員と振り返ることを実習スケジュールに組み入れたことにより、学生が実習の中で自然と自己課題を意識し達成に向け取り組んでいきやすい環境を整備できたと思われる。教員も改訂した実習記録フォーマットや学生面談が、実習内容に組み込まれたことを通じて、学生の自己課題へのとりくみ方や到達度の把握がしやすくなり、実習指導を行いやすい環境も整ったことで、ポートフォリオ活用ツールとして活かしていくことができると考えられる。

3. 教員研修の開催

ポートフォリオの研修では臨地実習指導者の参加もあり、大学と臨地実習施設の双方の指導者がポートフォリオについて理解を深め、共有できた。奥田(2016)は、統合看護学実習に向けた多重課題の演習にユニフィケーションシステムを活用した臨地実習施設の指導者へ公開授業を行ったことで、学生の学びが深まり、臨地実習指導者が学生の理解や学生の成長を実感できたことを報告している。このポートフォリオ研修においても、本学部の教員と臨地実習指導者でポートフォリオという教育手法の共有が図れたことには意義があり、大学と実習施設が協働して、実際の総合看護学実習の指導に活かしていくことが期待できる。

以上のことから、総合看護学実習におけるポートフォリオ導入のプロセスにおいて、運用までの準備は、先行研究(事例)やFD研修講師の鈴木氏の助言、著書等を参考に順調に進めることができたと思われる。したがって総合看護学実習の導入に向け、実習内容の検討や実習記録フォーマットの改訂を進め、教員や臨地実習指導者への研修にて準備を行ってきたことは総合看護学実習の改善と運用方法構築への架け橋になると推察される。

今後の課題として、ポートフォリオを活用した教育に関する効果が明らかになっている一方で、ポートフォリオの指導に関する研究は実践報告に留まっているのが現状である。安川(2013)がポートフォリオの作成や活用にあたっての困難点を、教員と指導者では「学習目標の設定」「学生への助言・指導」であったと報告しており、水方(2015)は学生を主体的にさせる環境さえ整えることができれば、学生は自ら考えて行動することができることがわかり、それにつれ、教員の役割も“知識伝授役”から“ファシリテーター”へと変化してきたように感じると述べている。ポートフォリオ活用にあたり、教員の困難点や役割変化について言及されているが、具体的な指導内容は明らかになっていない。学生の自己成長を促すためにも教員の役割変容や指導スキルアップが求められる。そのため、今年度総合看護学実習の指導に関わった教員と指導内容を振り返り、具体的な指導指針の作成を検討することが必要である。

V. 結論

ポートフォリオを活用した総合看護学実習の導入プロセスについて、文献検討、実習内容の検討・実習記録フォーマットの改訂、教員研修の開催を行った結果、次のことが明らかになった。

1. 文献検討

- 1) ポートフォリオの活用が学生の主体性を促し能動的な学習につながるため、学生自身の達成感も大きく自己成長への相乗効果となり得る。
- 2) 学生の自己成長を促すためにも教員の役割変容や指導スキルアップが必要である。

2. 実習内容の検討・実習記録フォーマットの改訂

- 1) 学生が自己課題を意識し、教員と自己課題のとりくみを振り返りながら実習を展開することができる。
- 2) 本学の総合看護学実習のポートフォリオ活用ツールとして活かしていくことができる。

3. 教員研修の開催

- 1) ビジョンからゴールに向かう過程（意思・成長・思考）での教員の関わりが、学生の意志ある学びにつながる。
- 2) 教員と臨地実習指導者がポートフォリオを活用した教育手法を共有でき、協働して総合看護学実習の指導に活かすことが期待できる。

これらのことをふまえ、今後は運用方法構築に向けて今年度の運営を評価し、ポートフォリオを活用した総合看護学実習の具体的な指導指針を作成していくことが重要であると考ええる。

文献

渥美一恵. (2011). 看護基礎教育における精神障害当事者参加授業の教育成果 ポートフォリオ「日々の授業記録」による検討. 日本看護学会論文集: 看護教育, 41, 71-77

筑後幸恵, 松村ちづか, 星野純子. (2010). 緩和ケア認定看護師教育におけるポートフォリオ導入の効果. 埼玉県立大学紀要, 11, 35-39

藤村礼美, 大谷美香, 高口みさき, 他. (2015). 基礎看護学実習第三段階にプロジェクト学習を取り入れた効果について. 愛知県立総合看護専

門学校紀要, 10, 47-56

小島さやか. (2012). 文献から見た看護教育におけるポートフォリオ評価活用の現状. 新潟青陵学会誌, 4(3), 101-109

厚生労働省. (2007). 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書. (アクセス日2016.5.5) <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.html>

日下知子, 曾谷貴子. (2012). 精神看護学実習におけるポートフォリオ導入の試み 実習振り返りシートの枠組み作成による援助関係を展開する能力の特徴. 川崎医療短期大学紀要, 32, 1-6

箕口ゆう子, 柴田美恵子. (2015). ポートフォリオとルーブリック・リフレクションを用いた実習の自己教育力育成への影響 基礎看護学実習後の学生の自己評価と自己教育力測定尺度から. 日本看護学会論文集: 看護教育, 45, 67-70

三浦 藍, 阿久津 麻里, 是木 弘美, 他. (2012). 目標管理にポートフォリオとグループ活動を用いて目標管理を推進する. 日本看護学会論文集: 看護管理, 42, 79-82

宮城和美, 原元子, 長守加代子, 他. (2013) 成人看護学実習前後での看護学生の自己成長過程における変化 ポートフォリオを活用した学び. 共創福祉, 8(2), 33-39

水方智子. (2015). プロジェクト学習とポートフォリオ評価の導入と成功体験（前編）学校存続の危機を救ったプロジェクト学習. 看護展望, 40(12), 1212-1218

日本看護協会. (2009). 第3部厚生労働省等の看護行政の足跡. (アクセス日2015.5.5) <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/2009/hojyokan-60-5.pdf>

西澤徹, 建部一夫, 檀原高. (2012). ポートフォリオ評価が診療放射線技師養成所の学生の臨床実習に及ぼす影響. 順天堂医学, 58(1), 49-53

奥田奈美. (2016). 多重課題演習における学生の学びと今後の課題. 神奈川県立平塚看護専門学校紀要, 18, 46-50

坂田五月, 佐藤道子, 石塚淳子. (2013). 看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 21, 13-23

杉浦暁代, 新美綾子. (2012). ポートフォリオを活用した統合実習 看護チームの一員としての複数受け持ち実習を目指して. 看護教育, 53(11), 936-943

- 鈴木敏恵. (2016). アクティブラーニングをこえた看護教員を実現するー与えられた学びから意志ある学びへ. 医学書院.
- 鈴木敏恵. (2015). 課題解決力と論理的思考が身につくプロジェクト学習の基本と手法. 教育出版.
- 山本容子, 岩脇陽子, 滝下幸栄, 他. (2012). 看護基礎教育の感染予防教育にポートフォリオを活用することの効果. 京都府立医科大学看護学科紀要, 22, 87-93
- 安原昌宏, 平田景子, 谷口晶子, 他. (2015). 長期実務実習におけるポートフォリオとルーブリックを用いた形成的評価の実施と到達目標に対する到達状況の調査. 日本病院薬剤師会雑誌, 51(2), 205-210
- 安川仁子. (2013). ポートフォリオ評価に対する認識の違いー看護学校教員・臨地実習指導者・看護師ー. 日本看護学会論文集 看護管理, 43, 103-106
- 横山弘, 薮田素子. (2005). 授業におけるポートフォリオの導入 学生の自己教育力の変化と感想からみた学習意欲の変化. 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 1, 31-36